

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473400495
法人名	社会福祉法人 愛光会
事業所名	グループホーム みなみ
訪問調査日	平成 23 年 9 月 7 日
評価確定日	平成 23 年 10 月 31 日
評価機関名	株式会社R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
〔次ステップに向けて期待したい内容〕
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473400495	事業の開始年月日	平成16年10月1日
		指定年月日	平成16年10月1日
法人名	社会福祉法人 愛光会		
事業所名	グループホーム みなみ		
所在地	(246-0026) 横浜市瀬谷区阿久和南三丁目26番地3		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは畑に囲まれたのどかな場所です。庭や建物全体が広く、日当たり良好です。野生の雉や鶯の鳴き声が聞こえます。定例行事で春はイチゴ摘みと寒川神社参拝。秋はみかん狩りと七沢温泉に行きます。また、食にこだわりがあり、量より質、旬の食材を重視して、ふきの天ぷら、きゃらぶき、梅干等手作りを徹底しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成23年9月7日	評価機関 評価決定日	平成23年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①地元の創始者が、地域に福祉で貢献したいとの思いから開設した特別養護老人ホーム「みなみの苑」を中心として、この地域に3つのグループホームを加えた福祉のネットワークを作り、地元に着した地域特性、自治会、地域包括支援センター、横浜市、瀬谷区との強いパイプを活用し地域へ貢献している。地理的には相鉄三ツ境駅からバスで10分弱、バス停から歩いて4～5分のところにあり、まだ畑が沢山残る、自然豊かなところである。法人の理念は「安心、安全、信頼」であり、グループホームではこれの具体的な展開として「怪我の無いケア」を掲げて取り組んでいる。2ユニットであるが、上位者は管理者と計画作成担当者であり、特にフロアリーダーも日勤の責任者も置かず“フロアも日勤も共同責任管理体制”で進めており、1人1人が全員責任者とし、個人個人の自覚を促している。管理者も自ら介護に入り、背中を見て覚えてもらうプレイングマネージャーの体制で率先垂範し、リーダーシップを発揮している。
②地域との交流については、創始者が地元の名士で知名度も高く地元に根付いた施設である上、運営推進会議で更に自治会、民生委員、地域包括との関係が深まり、お散歩ではご近所の方が声をかけて頂くなど良好な地域交流が実現している。お散歩コースは安全で、安心してゆっくり楽しめる環境にある。特養「みなみの苑」では、ここの福祉関係者全体で行う夏祭りがご家族、地域の方をお招きして盛大に実施され、またここグループホームみなみでも家族会に主治医の病院スタッフ、近隣の方々を加え、ボランティアによるアトラクション、手作りうどんやおでんも出て年々盛大になり、広い庭が手狭になるほどである。遠出のバス旅行については、特養に大型バスがあり、そのバスを利用して、定例ではみかん狩り、イチゴ狩りなど定例のものだけでも年4～5回は全員で出かけており、ご利用者は楽しみにしている。
③医療的な面については、医療スタッフを持つ特養「みなみの苑」に加えて医療連携の体制が完備しており、横浜いずみ台病院からは内科の医師が1階、2階各々2週間に1回(1階、2階隔週なので医師は毎週)往診に来て頂いており、心療内科も2週間に1回往診に来て頂く等、家族は安心している。職員の研修等については、愛光会のノウハウを充分に活用した新人教育、階層別教育がある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム みなみ
ユニット名	虹

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は職員と日常的に話し合いを持ち、理念の共有化に努めている。	法人基本理念は「安全・安心・信頼」であり、玄関に掲示されている。入居者の尊厳を尊重し、安全、安心と家族・地域密着の信頼をゆったりした自由の中で達成するよう管理者は日々指導している。特に職員には具体的な展開として「怪我の無いケア」を掲げて取り組んでもらい、早くコミュニケーションが取れるよう指導している。ご近所とは野菜を頂いたり、声掛けが出来るお付き合いをしている。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや危険の無い範囲での清掃、防災訓練に参加しています。回覧板は職員と利用者が届けています。	“みなみの苑”の知名度は大きく、“みなみの苑”の関係者を通じた福祉に対する「想い」は地域に広く広報され、地域の一員として期待されている。自治会に加入し、回覧板を利用者と一緒に次の方に回している。地域のお祭りや危険の無い範囲での清掃、防災訓練に参加してる。同じ系列の幼稚園との交流もある。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の畑や散歩時に野菜やお花。煮物を頂く等の交流があります。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	系列の3グループホームと家族、地域包括センター、民生委員、自治会長等の参加で行なっています。場所は各ホームを回ります。	愛光会の3ホーム合同で運営推進会議を行っている。それぞれのホーム回り持ちで、主催のホームからは利用者本人も参加し、議事の他にホームの見学も行い、ホームの違い、良い所等、ご家族からも意見を頂いている。地域については、自治会長、民生委員、地域包括センターの方の助言をサービス向上に生かしている。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや区役所の高齢支援課にケアの取り組み方に相談に行った事があります。	横浜市や瀬谷区の研修には必ず出席している。情報を知る上でも区役所の高齢支援課や地域包括センターと話し合い、対応の難問、分からない時には意見を伺いに行き、一緒に解決するよう取り組んでる。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門は不法侵入者の為に施錠していますが玄関は常に開けっ放しで遅勤者が帰ってから施錠し、朝の5時には開いていますので自由に庭に出られます。拘束は職員、一人ひとりが理解しています。	門は不法侵入者の為に施錠しているが、玄関は常に開けっ放しで遅勤者が帰ってから施錠し、朝の5時には開いているので自由に庭に出られる。又、外に出られる居室やベランダ側の窓も利用者が開け閉めしている。職員間で常に話し合いを持ち、身体拘束を必要としないケアに取り込んでいる。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習を受け、ミーティングを持ちます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての機会がある度に分かる所は説明します。成年後見制度を活用されていた方がいました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間を取っていただき、説明し理解、納得していただきます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に意見、苦情を管理者、外部にも伝える事が出来る事を説明しています。苦情箱も玄関受付台に置いています。	ご家族のある方は月1回はホームに来てくれている。毎月、明細書と共に、写真を添えて暮らしぶりなどの近況報告し、みなみ通信を出している。家族会（60名近い参加がある）、お誕生会、他にも家族と話し合う機会がある。玄関には意見箱を設置して有る。開所当時から職員が多いので、ご家族も気軽に話して頂ける体制が出来ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで話し合い、意見がまとまれば代表者に話します。十分話を聞き入れ、理解してくれます。	職員は自由に意見を述べている。ミーティングでも意見交換をするが、個別の意見も大事にしている。法人の代表者も来て、聞いたり、声も掛けたりしてくれている。ケースにより1対1で話す場合やミーティングのテーマとして取り上げる場合等、状況に応じた対応を実施している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた勤務状況、労働時間を理解して働きやすいようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた研修を受ける。アドバイスもします。職員からは研修を受け、勉強になりましたの声があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	回覧板の届け先がグループホームであり、地域包括センターでの運営推進会議や祭り、他グループホームの祭りの招待を受けるなどで交流はあります。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から要望や不安を十分聞き、見守りし、見極めて利用者が安心した生活ができるようにする。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話し合いを持ち、聞き入れるようにしています。入所の次の日は利用者の様子を報告電話を入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何がなかを見極め家族、利用者に説明し行なう。その後も利用者を見守り、必要ならば家族とも話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にしていますが知識豊富の方達ですので教えて頂きながら信頼関係を出来ればと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとる。みなみ通信で状況や写真を送り報告、電話で話す事もあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会、電話の取次ぎを時間関係なくお越しく下さいと家族や来園者に伝えていきます。	利用者の馴染みの方にはいつでも来て頂けるようお声を掛けている。面会時間も決めず、外出も自由である。近隣の方も多いので、訪問も多く、馴染みの人との関係は継続できている。友人の場合は事前に電話を頂き、ご家族の了解もとっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を干す時、たたむ時、モヤシの目取り、レクなどの時、一人ではなく皆さんが関わられるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても家族にはいつでも来園して下さるように伝えている。退所後も電話、手紙を頂いた事があります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々に違うので利用者や家族と話し合い、希望、意向に沿えるように努力しています。	本人、家族と話し合い、希望に添えるように努めている。本人の意志を尊重し、希望に添えるように努め、話を傾聴するようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家庭や病院を訪問し、生活歴、生活環境を把握して、利用者が安心して入居できるように努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格や出来る事、やりたい事や嫌いの事等を把握して穏かに楽しく生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞き、ミーティング、申し送り等で話し合い、様子見しながら計画を作成する。	何度もカンファレンスを行い、家族とも話し合い、医師の指示を頂いて介護計画を作成している。“みなみの苑”の職員に指導を受けセンター方式のシートを活用し、ミーティング、申し送り等で話し合い、様子見しながら介護計画に生かしている。介護計画の期間の間に変化があれば見直を行っている。重い方のモニタリングは毎日行い、自分で意思を表明出来る人の話は聴くように努めている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に事実を記入し、職員の意見、工夫は申し送りノートに書き、申し送りやミーティングで話し合い、介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度の話し合い、本人の状況を家族に伝え、家族の意見も聞きいれ利用者が安心した生活が送れるように努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括センターの催しやボランティアによるハワイアンダンス、バンド、ハーモニカ演奏に合わせて唄い、踊って楽しい日を過します。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の内科・心療内科の往診が月2回あります。他病院受診時は家族に連絡しますが近場は職員が遠方は家族に協力して頂くようにしています。	協力病院の内科の医師が月2回、別の協力病院の心療内科の医師が月2回往診に来てくれている。（看護師は週1回）主治医とは常に連絡の連携を図っている。また、病状や本人の希望で他科にかかる方は近場は職員が遠方は家族に協力して頂き通院している。また、医師の指示で、医療保険で行なうマッサージも来てくれていて、4名が利用している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪看を受けています。1週間の情報を伝えます。相談や指導もして下さる。協力病院でもあるので心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師と家族の面談時には立ち会います。その後も面会に行き、様子見し、医師や看護師に状態を聞きます。家族とは常に連絡を取り合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診時に家族に来て頂き、医師から状態の説明をして頂きます。その後は家族と連絡を取り合い、終末期が近くなりましたら又家族と医師とホーム側とで話し合いを何度もし、家族の要望に答えられるようにします。	利用者の体調については往診時に家族に来て頂き、医師から状態の説明をして頂いている。重度化や終末期に向け変化が感じられた時にはご家族に連絡し、家族、医師と3社で話し合いの場を作っている。現在、ホームでの終末期を希望されている方がいる。「ここでの生活が楽しいことが大切」と常に職員には伝えている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話機の側に救急マニュアルと連絡場所を提示しています。応急手当の訓練は定期的に受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練も受けていますし、全職員が避難経路は把握できています。周りには民家は有りませんが系列の特養が有りますので協力していただけます。	周りは畑で、直近の近所は無いが、系列の特別養護老人ホームがあり、協力体制が出来ている。利用者と一緒に年2回の消防訓練を実施しており、夜間想定訓練も行なっている。避難経路も職員は理解している。備蓄等は特別養護老人ホームも持っているが、基本は自分で持つ必要があり、冷凍保存食等持つように努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、対応や言葉遣いにはミーティング、申し送り等で話し合っています。職員は入社時に個人情報等に関する守秘義務の誓約書を提出しています。	馴染みが深くなると得てして、けじめが無くなりがちがあるので、目上の方への言葉遣いについては、職員同士で注意し合うように研鑽を図っている。ミーティングでも話し合うように努めている。職員は入社時に個人情報等に関する守秘義務の誓約書を出し、研修を受けている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食のメニュー選び、お茶等、利用者が決定できるようにしています。職員は焦らず、同じ目線、笑顔で利用者が決められように待っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、外出、外食は利用者の希望も聞き入れ、体調、天候を見ながら穏かに過せるようにします。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	歩行が自立されている方は外の美容院に行き、カット、顔そりして気分良好になります。外出時は職員が洋服決めに立ち会います。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取り、お茶の袋詰め、配食、配膳、おしぼり洗い等できることはして頂いています。	食材会社の通常のメニューの他、近くで取れる野菜や梅干や季節のもの等を出している。好き嫌いがある方は別の物を出したり、食欲がないときは梅干やきゅうり等を召し上がって頂いている。利用者にももやしの芽取り、お茶の袋詰め、配食、配膳、おしぼり洗い等できることは手伝いをして頂いている。おやつも手作りで楽しんでもらっている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いの物、量の配分、きざみ食、ミキサー食等に個々に支援をいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助でケアを行なっています。又歯科受診が必要な方は家族に伝え、対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所時にオムツ使用している方は排泄の間隔等を見守り、布パンツに向けた支援。オムツ使用の方はトイレ誘導。誘導できないフラットオムツ使用の方は夜間帯は2時間おきにおむつ、体位交換します。	入所時にオムツ使用している方については排泄の間隔等を見守り、布パンツに向けた支援を、オムツ使用の方はトイレ誘導を、誘導できないフラットオムツ使用の方は夜間帯は2時間おきにおむつ、体位交換を実施し自立に向けた支援を行っている。基本的には個別対応を実施し、その方の習慣に沿った対応を心がけている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌、野菜摂取に心がけ、軽い運動も行なっています。記録をチェックし、医師に相談、服薬や指示を受けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者に合わせています。午前10時や午後1番の希望されています。	入浴は、毎日の方、本人が何日目に入ると決めている方等、意志を尊重して自由にして頂いているが、入浴が嫌いな方については一日おき位に声掛けし、入浴して頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝坊も昼寝も自由です。居室の温度調節はこまめに見ます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬や変更があった場合は業務日誌に記載や申し送りをします。又副作用などを記載、申し送ります。効能書は提示しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格、趣味、生活環境に合わせて、散歩や台所仕事、展示物をして頂いています。気分転換は散歩、買い物に誘います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望も取り入れ、季節感が味わえるような花見、バラ、紫陽花散策はお誘いします。家族や行き先の方の協力はありがたく請けています。	外出では、希望も取り入れ、季節感が味わえるような花見、バラ、紫陽花散策など実施している。お誕生日会や外食は利用者の要望に添っている。本人の馴染みの場所、希望の店、天候によりその日に決めている。 (七沢のみかん狩り、いちご狩り、中華レストラン等) 少人数での遠出も実施しており、温泉ラジャの湯などを楽しむ方もいる。ご家族や行き先の方の協力はありがたく請けている。特養のバスも有効利用している。幼稚園の七夕などの招待も受けて行っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方もいます。買い物には現金を持っただき、自身で払っていただきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関受付に公衆電話が有り自由にかかけられる。外から家族、知人電話も取次ぎます。手紙の代筆や投函もします。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは皆さんの集まる場所ですのソファーには臥床せず、座位で皆さんが座位できるように声掛けたり、温度調節や窓を開け空気の入替えに心がけています。皆さんで作った作品も季節ごとに展示しています。	玄関、廊下、リビング、浴室、トイレは広々していて、共用の空間はゆったりしており圧迫感を感じず、風通しも良く住み心地は快適である。温度調節や窓を開け、空気の入替えを心がけている。インテリアは写真、利用者の作品が中心に飾られており、新聞の色の部分をちぎったチギリ絵はなかなかの出来ばえであった。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに自由に過されますが個々の様子を見ながら、テレビ観賞、レク等に声掛けします。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者が使用していた物を持って来られるように説明します。生活はじめてから利用者が安心して生活できるかを見極め、見守り落ち付けるように支援します。	入居前に、今までご本人が使っていた物を持ってきて頂くようにお話している。ご自身が使い慣れたものを持ってきて居心地良い空間に工夫されている。仏壇を持っておられる方もいる。生活はじめてから利用者が安心して生活できるかを見極め、見守り、落ち付けるように支援している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の生活環境、趣味、性格を見極めて出来る事、洗濯、台所、物づくりなどに参加し、自立できるように支援します。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームみなみ

作成日

平成23年8月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37・38	心に余裕が無ければ言葉遣い、態度が荒くなり利用者様に不愉快を与えるようになる。	ゆとりの介護。	相手を思う気持ち、相手側の気持ちになる事。気持ちの切り換えも大事にしてほしい。	6ヶ月
2	3	運営推進会議をホーム内で行なっているが理解できない職員が多い。	勉強会を開く。	会議の意義、目的をミーティングで話し合いを持ちます。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム みなみ
ユニット名	輝

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや、その都度の申し送り、話し合いで理念の共有化に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、回覧板を渡す時は利用者様と職員が一緒に行き、互いに知り合えるように努力しています。幼稚園の訪問、町内のゴミ拾い等、無理なく参加できる行事には参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くにある店舗の買い物には利用者様と職員が一緒に行き、自然の形で触れ合う事ができます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	分かりません		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分かりません		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間だけ施錠していますが日中は開いています。居室のベランダ側の入り口も自由に入りが出来るようになっていました。常に話し合い、身体拘束のないケアをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様への口の聞き方、対応に気をつけ虐待を防止しています。入浴介助や着替えの際、身体チェックを怠らないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで話し合いを持ち、又掲示板などでの知識を職員全体で共有し、話し合いを行ないます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な時間を持ち、丁寧に説明をし、理解して頂いています。後から疑問が生じた時にも、その都度、納得して頂くまで説明致します。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に意見箱を設けております。家族は職員に問いかける事の方が多いです。又、家族が訪問された時や家族会の時に近況を報告したり写真を渡して居ります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は疑問や問題が起きた時、すぐに管理者に相談、報告しています。常に話し合いの場を設け、質の向上を心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の状況に合わせ、働きやすいように配慮しています。職員のしたい事、出来る事等積極的に取り入れています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合わせた研修会、勉強会に参加できるように勤務時間を配慮してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修、忘年会、納涼祭などで交流する機会がありますのでその時に意見交換します。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は日常生活を丁寧にサポートし、話を伺い、利用者様が安心できる生活が送れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には丁寧に細かい事まで伝え、不安な事がないよう心がけている。いつでも家族からの要望、意見を聞くようにし、確実な関係を築けるように努力します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族の要望を聞き、必要な支援を確実にこなっています。利用者様のペースに合わせ、無理強いせずに行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には「親」時には「親友」と言うように「大切な人」だと思っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と一緒に利用者様を支援しています。日々の生活のケアは職員ですが気持ちはいつも家族と共にです。本人と家族の絆が弱くならないように上手なパイプ役で有りたいです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてた馴染みの方には、いつでも来て頂けるようになっております。外出も自由にできます。又、電話でも応対できます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや庭のベンチで利用者同士が談笑されている事が多々あります。手を繋いだり、品物を手渡ししています。時には暴言や荒れた態度の時も有りますが職員が仲裁に入ります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られた方は顔を見に行ったりしています。定期的に連絡を取り、話を伺っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	悩んでいたり、困っている時は職員又は管理者が相談に乗ったり話し合っています。そして、希望が叶えられるように努力しています。出来る事は改善しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り、これまでの慣れている環境に近づけ、無理のないペースで、ホームに馴染んでいくように支援します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録されている事柄や申し送りを参考にして、支援しています。見守りや声掛けを重視して行なっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。又必要とあればいつまでも見直し、検討をし話し合いを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をきちんと記入することで、利用者様の变化やより良い対応を職員全体が同じように出来ます。又次のステップにも進む事が可能になります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められたプランであっても、変化があれば、その都度、対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアである、フラダンス、ハーモニカ、太鼓等が利用者様の楽しみになりました。町会内に畑の作物、花畑が利用者様の気分転換になっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の受診は本人希望で直ぐに受診できます。それ以外の病院でも対応しています。月に2回、医師の訪問医療が受けられます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院があること。定期的に訪問してくれているので、すぐに相談し指示を受けることが出来るので助かっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院の医師があらかじめ利用者様の状況を把握していられるので速やかに対応できます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族にはすべてを伝え、心の準備が出来るようにしています。提携病院・家族・ホームが情報の共有ができていますので職員はそれに則って支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は管理者の指示のもと、職員が行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回利用者様と行なっています。消火器、避難場所も理解しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みが深くなるのと、言葉使いや態度がぞんざいになってしまうことがあります。職員同士で注意したり、ミーティングで注意を促したりしています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃の様子を見ながら、利用者様自身で判断できるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、外出、行事の参加はその日の天候、利用者様の体調、気分に合わせて支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容店に来てもらっています。季節ごとに衣類の交代、チェックをしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いのある方は別の物を出しています。食欲のない時はお粥にし、梅干。佃煮を出しています。近くで取れる野菜も出しています。利用者様にも盛り付け、テーブル拭き等手伝って頂いています。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算のしてある食材を使い調整しています。普通食が大半ですが粗キザミにして食べられる方もいます。食事の摂取量を記録しています。食事をなさるペースでテーブルを別けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎晩、義歯を使われている利用者様は入れ歯洗浄で清潔にし、毎食後の口腔ケアは欠かさずします。毎食後の口腔ケア、舌ケアも欠かさず行ないます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の方も時間でトイレ誘導しています。一時期オムツ使用されている利用者様も時期を見て布パンツになるように支援します。パットのみ使用されている方も、小さな尿漏れパットに変えられて結果、排泄で楽になられた方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、食べ物で便秘を予防し、体操をしたり、廊下を歩いたりして身体を動かすよう働きかけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間は出来ませんが午前、午後と入浴を希望する時間帯を選べるようにしています。利用者様の出来る事はして頂き、それ以外は手助けしています。その日の気分、体調に気をつけ、風呂場の清潔、安心に注意しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の空調、証明管理は個別に対応しています。夜間のトイレ誘導は個別に安全を心がけ速やかに行なうようにしております。他の利用者様に迷惑をかけないように静かに対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬、病歴を理解しています。又服薬の変更時には申し送り、記録で伝わるようにしています。服薬の内用が認識できるように職員が見られる場所に提示されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の見守りの中から利用者様の好きな事、出来る事を見つけサポートしています。職員も一緒になって楽しみながら支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生会による外食。花見、温泉など、介護度に関係なく希望される利用者様は出かけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持っていらっしゃる利用者様がいます。買い物の時、財布を持ち出かけますが使いません。支払う時は職員から渡しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関口に電話が有り自由に使えますが最近は使われる方がいません。手紙の返事を書いて頂きたいのですが中々書いてくさいません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除行い、清潔保持を心がけています。玄関、廊下、リビング、トイレ、浴室が広いのでぶつかる事もなく利用されています。インテリアは季節に応じて飾り付けています。利用者様の作られた作品を優先しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配置に気をつけています。新聞を読んだり、テレビを観たりして居ります。時には職員と話したり歌を唄ったりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの品物を持って来られるように話していますので皆様そうしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共同空間共に安全に動けるように気を付けています。居室の分からない方には大きく名前を書いたり、目印をつけています。台所仕事、洗濯、掃除等出来る事をして頂いています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
みなみ

作成日

平成23年8月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	目上の人に対する言葉遣い。馴染み深くなると言葉遣いがぞんざいになったり、大声で注意したり、幼児に話してしまう	常に穏かな気持ちで利用者様に接するように努力する。	職員同士で注意するよう話し合う。	6ヶ月
2	48	入居されている期間が長くなり年を重ねられて「出来る事」が少しずつ減っています。「分かる事」も、時々分からなくなり、不穏な様子になります。	無理強いせずに声掛けはきちんとして、体操、散歩、ゲームの参加される利用者様を増やしていく。	職員から、個々の利用者様に話しかけ、日々の気分、体調を把握した上で参加を促がす。	6ヶ月
3	55	年齢を重ねられてきて、今迄の「出来る事」「分かる事」が少しずつ減ってきているので本人が不穏になれる。	台所仕事、洗濯物を干したり、畳む、掃除をするなど簡単な仕事の役割をやって頂く。	日々の状況を見て、職員と一緒にしたりして自信を付けられる様にする。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。